

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

子どもを見守る

くわはら ひろし
桑原 浩さん（保原町）

保原町金原田から、大田小学校まで片道約 2.5km。毎日子どもたちを迎えに行き、一緒に帰ってくる「見守り隊」を数十年続けている。かわいい孫たちのために、雨の日も風の日もがんばる、地域のおじいちゃんに話を伺った。



金原田の子どもたちの片道約 3,000 歩の道のりを見守っている

超人的体力：毎日10^{キロ}の散歩

見守りなんてたいしたものじゃなくて、毎日の散歩のときに子どもたちがちょうど帰ってくるだけ。行きは自転車で行って、帰りは子どもたちと歩いて戻ってくる。低学年、高学年で下校時間が違うから、1日2回かな。4月は1年生たちが早くに終わるから1日3回。今の時期はさすがに2往復もするとシャツが搾れるくらい汗かくよ。

生きていることへの恩返し

人はいろいろな人との関わり

で生きていて、毎日誰かに世話になってる。どんな人が作った米か分からないけど、それを食べて自分も生きてる。その恩返しをするにはどうしたらいいか考えたときに、「子どもは地域の宝」というから、子どもを守れば、地域のみんなにもお礼ができるんじゃないかって思って、軽い気持ちで始めたんだ。

子どもたちはみんな孫

金原田の子どもたちはみんな孫のようなもんだ。毎日起きた出来事や先生の秘密を、帰り道で詳しく教えてくれるんだよ。誰が習字で1等賞とったとか、お泊り学習行くんだとかさ。それがおもしろくて、時間がすぐに過ぎる。今の時期だと、ねこじゃらしを抜いてお互いじゃれて遊んだり、ザリガニがいた！なんて田んぼの畔のぞいて止まったり。「勝手なことすんな！」

なんて注意したって、うるさいジジイだと思って聞きやしない（笑）。毎日にぎやかなもんだよ。

予定は未定、できたらやるだけ

昔一緒に歩いた子がこの間あいさつしてくれただんだ。大きくなって誰だか一瞬わからないんだよ。「結婚して子どもを産んだから、うちの子もよろしくお願いします。」なんて言ってるさ、俺そんなに生きたらねえぞって言ったんだ（笑）。何年やったか、なんて考えたこともないよ。いつかraithまでと線をひっぱってやることでもないし、これらの予定も未定。型にはまってる堅苦しいことやるのは苦手だから、朝起きて、その日、体が動いたらやる！ただそれだけ。



自転車のカゴの救急箱は大切な七つ道具の一つ